

1 題材名 身体が自然に動き出す！？～広がれリズムの世界～

2 授業構成

(1) 題材の価値と魅力

音楽科の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」である。

本題材は、小学校学習指導要領解説音楽科編第3学年及び第4学年の内容「表現」と「鑑賞」領域において以下のように位置づけられている。

A 表現

(2) 一エ 互いの楽器の音や副次的な旋律,伴奏を聴いて,音を合わせて演奏すること。

(3) 一ア いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ,様々な発想をもって即興的に表現すること。

B 鑑賞

(1) 一ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして,楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

第2の内容の取り扱いについて

(1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては,音楽との一体感を味わい,想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう,指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること。

西洋音楽を構成している3つの要素は、律動、旋律、和声と言われている。律動とは、音の強弱が時間的に配列されることによって生ずる、一種の節奏感と定義づけられており、それは、拍子感やリズムと同様によばれることが多い。人間は、律動、旋律、詩の順に覚えていくものであり、忘れる順はその逆となるという一説がある。そのため律動は、人間が最も身近で最初に得る音楽的な要素であり、あらゆる音楽の出発点であると同時にあらゆる音楽を支配しているといわれている。また、西洋音楽に限らず、律動のない音楽はない。

こうした点から、「小学校学習指導要領解説 音楽編」を読み直したとき、6年間を通した題材はそれに沿って系統立てて構成されていることがわかる。多くの教科書教材では、「拍」を中心に扱われているが、「拍」と「リズム」は似たような言葉でまとめられることが多いため、その違いをはっきりと子どもたちに体感させることが難しいと感じてきた。拍は拍子のもととなる音の長さであり、拍子はくり返される拍の数のまとまりをさす。1年生教科書教材「ぶんぶんぶん」を例にとってみると、1小節に4分音符が2つ分、つまり4分の2拍子となり、1, 2, 1, 2, と心の中で繰り返して歌うことができる。この題材でのねらいは、1, 2, 1, 2にのって、たん・たん・たん・うん、たた・たた・たん・うんのリズムをうつことにある。つまり、楽曲の中で拍は終始一定したもののくり返すものであることに対し、その拍にのってリズムは変化していくものと考えることができる。拍については、4分の4拍子、4分の2拍子、4分の3拍子、8分の6拍子を扱うようになっており、リズムについては4分音符を中心にした単純なものから拍が短く複雑なものへ移行していく。

このような背景を受け、人間が最も身近で最初に得る音楽的要素、律動についてもっと面白いアプローチができないかと考え、新たな題材の設定を試みた。

西洋で芸術としての音楽が確立されるまで、音楽は、踊りや詩と切り離すことができない関係にあったともいわれる。人は音楽とともに生きてきた。そして音楽を形づくっている要素の中で最も重要な役割をしているのが律動つまり、リズムである。リズムは人の身体を自然に動かす力をもっている。ここに注目したいと考えた。

本題材では、曲想を決定付けているリズムに着目し、その特徴を感じ取ったり、それによって生まれる動きを捉えたりしながら、表現と鑑賞の活動をすすめていくことができる。子どもたちが感じ取った音楽の気分を心と体と頭、つまり身体全体で感じ取って聴くことをねらっている。そして、自分たちが感じ取ったリズムを器楽及び身体表現活動を通して、さらに自分の中に身体を動かすリズムの力を体感することができると思う。

教材曲「朝だ！カリリオ！」は、ブラジルにおいてバトゥカーダ打楽器で編成される楽曲である。旋律がないため、リズムに着目して音楽を楽しむことができる点で適していると思われる。ラテン楽器の音色が一つずつ重なっていくので、それぞれのリズムが捉えやすく、子どもたち一人一人がお気に入りの楽器の音色を基にして重なっていくさまざまなリズムを見つけやすいと思われる。また、サンバのようすを思いうかべながら鑑賞する児童にとっても、イメージしやすく言語活動と音楽を形づくっている要素の双方向での交流も期待できるだろう。

教材曲「阿波踊りのテーマ」は、くり返される旋律と中心リズムが生み出す曲想のおもしろさを感じ取るために適している。阿波踊りなど、祭り囃子で使用される主な楽器の一つである当たり鉦は、高音で子どもたちの耳に最も響き知覚される音色をもっており、中心リズムの感受が期待できる。教材曲の中で用いられている中心リズムは沖縄の踊り「エイサー」や「カチャーシー」でもよく用いられる♪♪|♪♪に酷似しており、軽やかにはずむリズムを生み出している。

教材曲「サンバデジャネイロ」は、鑑賞曲で感じ取ったリズムを身体表現と器楽表現の両方で生かすことができ、子どもたちの表現の工夫を広げられることを期待できる。これから出合っていく曲にどのような特徴や仕組みやがあるのか、そしてそうした特徴を生かしてどのような工夫をしたらよいか、本題材で基礎的な能力をさらに広げる力を養うことができると思う。

こうした魅力ある教材曲をもとにして、リズムの面白さを身体で感じ取ったり、音楽におけるリズムの世界を広げたりできる授業づくりをしたい。

(2) 本題材における思考を高める学びの場の設定と子どもの協同的な学びの姿について

本学級の子どもたちは、音楽的な要素を意識しながら音楽を楽しむことができるようになってきているように思われる。歌唱表現では曲想を感じて表情豊かに声色を変えながら歌を歌ったり、器楽表現ではリコーダーの音色に気を付けてスタッカートとレガートをタンギングの工夫をして演奏をしたりする姿が見られるようになってきたからである。また、鑑賞活動でも1音1音を大切に聴こうと音の始まりや終わりを意識して音や音楽を聴くことができる子どもが多く、音楽を聴いて感じたことを絵や言葉で表現したり、身体全体を動かしたりして鑑賞の授業を楽しむ姿も見られるようになってきている。

子どもたちはこれまでに、いろいろな音楽の聴き方を経験している。鑑賞曲「白鳥」「剣の舞」では比較しながら聴くことで曲想の違いを捉えた。その中で、「剣の舞」は子どもたちのお気に入りの1曲となり、自然に体が動き出す子どもや何度もくり返し聴きたいと願う子どもがたくさんいた。楽器の音色や子どもたちが感じ取ったことに対して「なんでそんなふう感じたのだろうか」「どの音

からかな」「どこの部分のどの音色かな」と「なぜ」や「どの音から」「どこの音、部分」を問い続けることで、「とにかくテンポが速い」「もう1回きかせて。ここから。この音が大きくなっていくところ」というように、感じ取ったことがどの音楽的な要素とかかわっているのかを子どもたち自身が気付いていく過程や自分たちで作り上げていく鑑賞の授業を楽しんでいるように思われる。

一方で、いつも同じ視点からでしか音楽を聴くことができない子がいたり、鑑賞の授業が一部の子どもたちの発言によって展開されたりすることが課題としてあげられる。そこで「今のA君の言っていることがよくわからないな」「だれかつなげられるかな」と個の発言を全体に問いかけ、子どもたち同士をつなぐことで、音楽をいつも表層的で感覚的に聴いている子が、友だちの発言や表現によって拍や速度、強弱など音楽を形づくっている要素とのかかわり合いを感じ取ることができるようになっていく。こうした姿が音楽科における協同的学びであると考えられる。逆もまた然りで、音楽を音の動きやリズムなど楽譜をよりどころにしてしまいがちな子にとっては、音楽をさまざまなようすや世界を想像しながら楽しむ友だちのよさに気づき、音楽の楽しみ方、聴き方を広げていくことができる姿を求めていきたい。

本時においては、導入部分は自由な聴き方で音楽を楽しみ、感じたり気付いたりしたことを出し合う中で友だちの多様な聴き方について知る。さらに、身体表現を取り入れた鑑賞活動により、それらがどのようにかかわりをもっているのか、音や動きを通して、子どもたち同士がつないでいく姿を期待したい。「身体を動かすのは何なのか」の課題は、自分の身体が動かない子どもたちがいたとしても身体を動かす友だちを見て「音楽の何と動きがつながっているのか」を探究し続けることができると考えて設定した。

指導にあたっては、低学年から育ててきた音楽に対する感性を高めるために、中学年ではより具体的に旋律の音の動きやリズムに着目しながら曲想を感じ取り、それにふさわしい表情豊かな表現の仕方を工夫していくようにする。

思考を高める学びの場の設定と子どもの協同的な学びを実現するための具体的提案は以下の4つである。

- 個の探究を可能にする、多様な感じ方ができる楽曲を選択すること
「朝だ！カリリオ」と「阿波踊りのテーマ」
- 思考が高まるような発問と楽曲との対峙のさせ方
「身体を動かすのは何だろう」という問いの設定と聴き方の焦点化
- 音・音楽で子どもたちの言葉や活動をつなぐために楽曲の分析を細分化して行い、子どもたちの聴き方を想定したり教師自身が楽曲の魅力を感じたり楽しんだりすること
- 個の思考を深め集団の思考を高めるために鑑賞活動に表現活動を取り入れること

3 題材の目標

- 拍子やリズムのおもしろさを身体全体で感じ取りながら、聴いたり表現したりする。
 - ・拍子やリズムのおもしろさを感じ取って、体を動かしながら音楽を聴いたり、楽器を表現したりする学習に進んで取り組む。(音楽への関心・意欲・態度)
 - ・拍子の違いによる曲想やリズムのおもしろさを感じ取り、それらを生かすような楽器の演奏の仕方を自分の思いや意図をもって工夫する。(音楽表現の創意工夫)
 - ・拍子の違い、リズムの変化に気をつけて聴いたり、拍の流れにのったりリズムを即興で演奏したりする。(音楽表現の技能)

- ・拍の流れやリズムが生み出す曲想を感じ取ったり，楽器の音色やその重なり合いが生み出す楽曲の特徴や演奏のおもしろさに気づいたりしながら聴く。(鑑賞の能力)

4 学習計画 (全8時間)

- 第1次 リズムに気を付けて「朝だ！カリリオ！」「阿波踊りのテーマ」を聴く。(本時) 1 / 8
- 第2次 世界の踊りと音楽を楽しむ。
 - 第1時 世界の踊りと音楽を鑑賞し，それぞれのリズムを楽しむ。
 - 第2時 自分の身体が動き出したリズムで身体表現と演奏を楽しむ。
 - 第3時 さまざまな世界の踊りの歴史を知り，演奏をさらに楽しむ。
- 第3次 リズムの特徴を生かして「サンバデジャネイロ」を演奏する。
 - 第1時 「サンバデジャネイロ」の鑑賞をし，旋律をリコーダーで練習する。
 - 第2時 リズムの特徴を捉え，自分のすきなリズムをボディーパーカッションや手作り楽器で演奏する。
 - 第3・4時 即興リズムを加えてさらに演奏を楽しむ。

5. 本時について

(1) 本時目標

身体が動き出してしまうリズムを楽しみながら「朝だ！カリリオ！」「阿波踊りのテーマ」を聴く。(鑑賞)

(2) 準備 CD，ワークシート，当たり鉦，タンボリン，サンバホイッスル

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇協同的な学びへの支援 ◆個の探求への支援)

| 学習活動 | 教師の意図・支援 |
|--|--|
| <p>1. 「朝だ！カリリオ！」「阿波踊りのテーマ」を自由に聴き，感想や気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的にテンポが速い。 ・くり返しがあるなあ。 ・ノリがいい。 ・うきうきする感じがする。 ・踊りの曲だと思う。 <p>2. 本時のめあてを知り，リズムを身体で感じ取る。</p> | <p>○曲名を知らせ，自分の感じ方を生かして聴くことができるようにし，できるだけ多くの子どもが自分の言葉で発表できるようにする。</p> <p>○1回だけしか流さないことを伝え，1音1音に集中して聴かせるようにする。</p> <p>◆一人一人の音楽の聴き方を認め，個の学びの時間を確保するためにワークシートを活用する。</p> <p>◇感じたことと音楽を形づくっている要素とのかかわりがわかるように板書を工夫し，個の気づきを全体で共有する。</p> |
| <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <h3>身体を動かすのは何だろう？</h3> </div> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・テンポが速い。 ・タタタンのリズムかな。 <p>3. 「朝だ！カリリオ！」「阿波踊りのテーマ」を聴いてリズムについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当たりがねの音色で体がはずむよ。 ・ホイッスルのリズムがおもしろいな。 ・低音でドンドンひびく感じがいいな。 <p>4. どんなリズムで身体が動き出すか自分たちで思い出したり考えたりする。</p> <p>5. リズムを楽しみながら，「朝だ！カリリオ！」，「阿波踊りのテーマ」を聴く。</p> | <p>○発表した部分について，みんなで鼻歌を歌ったり，手拍子を打ったりすることで，リズムについて視覚的に捉えて共通理解を図り，特徴的なリズムを確かめる。</p> <p>◆リズムを自分に合う形で感じ取ることができるように，指揮をしたり身体を揺らしたり，メモをとったりしながら聴くように声をかける。 ※個の探究</p> <p>○表現活動を取り入れた鑑賞活動を通して気づいたことを出し合い，個の思考を深めたり，協同的な学びの実現を図ったりする。</p> <p>○音楽を聴いて自然に身体が動き出した経験を出し合い，みんなでそれらを共有することで多様なリズムを身体で感じ取らせたい。</p> <p>◇全身，手拍子やボディーパーカッションでリズムにのることができない子にはペアや班の友だちの動きを見たり，旋律を口ずさんだりするように声をかける。</p> <p>◇子どもたちの鼻歌や身体の動きとCDの音楽を往復することで気づきを確かなものにする。</p> <p>○これまでに経験しなかったリズムとの出会いを通して本時のまとめの活動を楽しみ，次時につながるようにする。</p> |

(4) 参考文献

「音楽入門」伊福部昭 全音楽譜出版社

「もっと知りたい世界の民族音楽」若林忠宏著 東京堂出版

「授業のための日本の音楽・世界の音楽」島崎篤子・加藤富美子 音楽之友社